



校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠

「ごそごそ落ち着かない」ときは？

こんなときの主な突破口は次の4点。

1 一担任が担任する学級にどっぷり浸かりすぎる時間を減らす。

- (1) 2学級、3学級合同で取り組む授業を増やす。このような中で課題別・習熟度別学習を組むのもよい。学年合同の朝の会・帰りの会をするのもよい。
- (2) 学級間で授業進度を合わせ、同じ時間帯に同じ内容の授業をしている時限を増やし、それぞれの担任が相互にその授業中、学級間を行き来する。
- (3) 一部教科担任制(交換授業)を行う。

2 一点突破の生徒指導に徹する。

学年で1つどの児童も例外なく徹底し切ることを決める。それは何でもよいのです。他から見れば些細なことでもよいのです。「教室移動の際は列を乱さず無言で移動する」でも何でもよいのです。ただし、できなかつたら妥協せずやり直しをさせます。毎日、合同朝の会で意識させ、毎日、合同帰りの会で振り返りをさせます。できるようになった達成感と連帯感を必ず味わわせるようにします。できるようになるまで根気比べです。1つできるようになれば占めたもの。次の新しい一点突破に取り組みます。

3 特別な児童には特別な愛情を注ぎ続ける。

みんなに同じ質・量の愛情を注げば、みんなが同じように落ち着くのであればよいのですが、実際はそうではありませんね。溢れる愛情の中で育った子、虐待され続けて育った子、いろいろです。愛情が足りない中で育ったと思われる子には、教師として注ぎ得る特別の愛情注ぐ必要があります。もちろん、その成果はすぐに出ません。出ないかもしれません。こんな愛情の注ぎ方でいいのか？自問自答の日々が続きます。それでも、あきらめてはいけません。教育とはそういうものだと思います。

4 専門機関につなぐ。そして、つながり続ける。

教師は教育の専門家ではあるものの、教育をよりよく進めるためには、教師だけでは難しく、あるときは心理カウンセラーやソーシャルワーカーと、あるときは診療機関と、あるときは児童福祉施設と。その他、必要と思われる様々な専門機関とつながることが必要な場合があります。そのほうが、結果的には、その子自身のため、保護者のよりよい子育てのためにもなったりします。「ごそごそ落ち着かないとき」は、保護者の理解を得ながら、専門機関につなぐ。そして、つながり続けることにも取り組んでいきましょう。